

○No.7 (1990. 11)

Family Matrix : Its Theory and Application.

(IUSSP Conference, Session 13, Florence, June 1985) Kiyosi HIROSIWA

○No.8 (1990. 12)

Does Very Low Fertility Accelerate Nuclearization ? :

Kin Availability of Low Fertility Societies.

(IUSSP International Population Conference, 20-27 September,

1989, New Delhi, 1989) Kiyosi HIROSIWA

Reprint Series

○No.11 (1990. 10)

Determinants and Consequences of Low Fertility in

Low-Fertility Countries.

(Reprinted from UN, ESCAP, *Third Asian and Pacific*

Population Conference, Colombo, 1982 : Selected Papers,

Asian Population Studies Series, No.58, 1984) Shigemi KONO

JICA「メキシコ人口活動促進プロジェクト」への協力

国際協力事業団（JICA）はメキシコ政府と、国家人口審議会（CONAPO）をカウンターパート機関として「人口活動促進プロジェクト」を実施した（1984. 7～1988. 9）。本研究所からも多数の所員が派遣され、その成果に貢献した。

同プロジェクト終了後2年経過し、今回、フォローアップ指導の短期専門家として本研究所から西岡八郎（人口構造研究部研究員）がCONAPOに派遣され、平成2年10月1日～11月3日の期間、主に人口教育に関する技術協力にあたった。その他、プロジェクト方式技術協力の「事後現況調査」、及び保健省との新規案件「家族計画・母子保健プロジェクト」の進捗に関する調査を実施した。

CONAPO側のレオノール・メネグッチ（Leonor Meneguzzi）人口教育部長及び人口教育部員に対し、(1) 人口教育の方法論に関するマニュアル作成、(2) 人口教育の一分野である家庭生活に関するテキスト作成、(3) 人口教育活動の基礎資料を得るための「結婚登録直前のカップル」に関する実態調査の企画、実施、解析、及び(4) (3)と同様の目的で実施された高校生対象の性意識と性実態に関する調査の解析について、具体案を示すなどの方策をとり、指導、協力した。また、(5) 人口教育部スタッフに対し、基礎統計と人口学用語に関するテキストを作成、教示した。

プロジェクト方式技術協力「事後現況調査」は、世界各地で実施されたJICAプロジェクトの再評価調査の一環として、「メキシコ人口活動促進プロジェクト」もその対象となったものである。すなわち、プロジェクト終了後の組織（人を含めて）、施設、供与資機材等の分野における現在の実績や活動・利用状況等からプロジェクトの見直し、あるいは今後のプロジェクト活動の基礎資料を得るための調査であったが、一点だけ感想を述べておく。

この調査の対象機関であるCONAPOは、人口統計分野、人口教育分野の両分野を備えるメキシコで唯一の公的機関である。しかし、プロジェクト開始当初は、コンピューターシステムなども導入されておらず、公的情報機関としての体裁、機能を十分に果たしていなかった。それが、プロジェクト終了時にはJICAのハード面、ソフト面での支援・協力により、人口データ・ベースシステムも構築され、また、各州人口審議会との連携も強化、ネットワーク化が進むなど人口情報活動の中心機関として整備された。今回の調査で、CONAPOのシステムが外部からも幅広く利用されるなど、その役割も定着したとの印象を強く受けた。JICA技術協力方式プロジェクトの目的の一つに、ハード・ソフト両面での「Building of institution」への支援という視点が考えられるが、「メキシコ人口活動促進プロジェクト」は、この点にも適っており、技術協力の成果、意義は大きかったといえる。

（西岡八郎記）